

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

10 日仏美術館交流（ケ・ブランリ美術館とインターメディアテク）（2020年11月12日）

フランスの国立美術館は役割分担されており、日本の美術品は基本的にはギメ東洋美術館に集められていますが、ケ・ブランリ美術館でも日本の文化財を見ることができます。

エッフェル塔の近くにあるケ・ブランリ美術館は、アジア、アフリカ、アメリカ、オセアニアの民族文化を紹介する美術館です。正式名称は、ケ・ブランリ・ジャック・シラク美術館と言います。相撲好きで日本美術に造詣が深いことで知られていたシラク元大統領は、日本以外のアジアやアフリカの民族芸術にも精通していました。シラク元大統領がパリ市長だった頃、「原始美術」（プリミティブ・アート）の専門家であったジャック・ケルシャシュと出会い、構想から10年の歳月を経て2006年にケ・ブランリ美術館が開館しました。二人のジャックさんの尽力によって生まれた美術館です。

日本の展示スペースには、反物を染めるときに使う型紙、アイヌ民族の衣装と山形県の獅子舞が展示されています。



東京の丸の内に、日本郵便株式会社と東京大学総合研究博物館が協働して運営するインターメディアテクという文化施設があります。ケ・ブランリ美術館は、インターメディアテクと協力関係にあり、インターメディアテク内にケ・ブランリ・トゥキョウという常設展示スペースがあります。日本においてフランスの国立美術館が常設展示を行う貴重な場所となっています。

ケ・ブランリ美術館は、斬新な形の建物と外壁に垂直方向に植物が植えられた「植物の壁」でも知られています。建物の入口から展示スペースの間にあえて距離をとっているのは、入口から展示室まで歩く間に、日常とは異なる民族文化の世界へ来場客をいざなうための工夫です。世界各国の民族文化と比較しながら日本のものを見ると、日本文化の新たな一面を発見できるかもしれません。（外出規制により、フランス国内の美術館は現在閉館中。）